

〔 認知症支援事業 〕

認知症支援チームの活動と各府県士会の動き

○松下 太, 野崎 健(大阪府作業療法士会)

上田 章弘(兵庫県作業療法士会)

森 志勇士(京都府作業療法士会)

千葉 亜紀(奈良県作業療法士会)

林 祐樹(和歌山県作業療法士会)

宮本 綾子(滋賀県作業療法士会)

「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」は7つの柱をもとに構成され、この中で作業療法士には多くのことが求められ、期待されています。認知症の人に対する作業療法も、病院や施設での収容の時代から地域ケアへとパラダイムシフトの真っ最中です。

近畿作業療法士連絡協議会では、これら認知症施策に対応するために、平成25年度より各士会から代表者を選出しワーキングチームを編成しています。このチームでは、各士会での認知症関連事業の進捗状況確認や、研修会内容の情報交換、連絡協議会として年に1回の研修会の開催等、定期的に活動を行ない、認知症施策に関する連携を深めています。また、平成28年度には、日本作業療法士協会から認知症アップデート研修を各士会で進めていくことが示され、各士会がこれに取り組んでいるところです。

当日は、各士会における認知症関連事業に関する取り組みと、近畿作業療法士連絡協議会の「認知症支援チーム」の活動について報告します。